

◆文化のあり方や伝承性による分類

a) 民俗音楽

普通の人々によって、長い伝統の中で伝えられ保持されてきた音楽。支配者というよりも被支配者階級の音楽。それほど都市化／商業化されていないというイメージが強い。聴衆のみならず演者も職業的専門家でないことが多いので、技術的な洗練にも乏しいというイメージもある。「民俗」は英語の **folklore** に相当。

b) 大衆音楽

普通の人々によって支持される(＝大衆的)音楽だが、民俗音楽よりも「都市化／商業化された」というイメージが強い。享受の立場で関わるのは、芸術音楽と違って比較的平易。演者は職業的専門家であることが多い。英語に訳せば **popular music** で、本来「ポピュラー音楽」と同義のはずだが、日本語の日常的な語法としては「ポピュラー音楽」より適用範囲がやや広いように思われる(次項参照)。

c) ポピュラー音楽

基本的には大衆音楽と同義。ただし日常の語法としては西洋伝来ないし西洋近代の影響を受けたもの、というイメージを伴うことが多い。具体的には、小唄・端唄や浪花節を「大衆音楽」とは呼べても、「ポピュラー音楽」とは呼びにくい。

d) 芸術音楽

高度に様式化・洗練化された音楽。演奏や鑑賞に一定レベル以上の技術や知識が要求され、そのための経験や修練を必要とする(従って大衆的でない)ものが多い。大抵は社会的な支配者階級の支持を受け、その保護のもとに洗練化が進められた結果出来上がったものと見られる。狭義には、西洋近代の「芸術」概念に則った音楽つまり「クラシック音楽」とその延長上にある「現代音楽」をさすが、西洋近代的観点から「芸術的」と見なせるような他文化の音楽も芸術音楽と呼ぶことがある。ある程度の伝統を持つ場合は「古典音楽」とも呼ばれる。

e) クラシック音楽

西洋の芸術音楽。本来は「古典(派)音楽」に相当する語だが、日常語としてはもっと新しい音楽(＝「現代音楽」)や、もっと古い音楽(＝狭義の「芸術」概念が成立する近代より前の音楽の中でも近代以降の観点から「芸術的」と見なせるようなもの)を含む。英語の **classical music**, **serious music** などにあたる。

f) 民族音楽

民族音楽学 **ethnomusicology** の研究対象となる音楽の総称。民族音楽学はもともと西洋人が自分たちの文化圏以外の音楽を研究するための分野なので、非西洋の音楽全般(民俗音楽も芸術音楽も)が含まれる。昔は西洋の影響を受けたポピュラー音楽などは除外される傾向があったが、民族音楽学の考え方の変化に伴って近年はそうしたものも含まれるようになった。世界音楽(ワールドミュージック)と呼ばれることも多い。

◆機能・場所による分類

例:	宗教音楽	世俗音楽		
	教会音楽	宮廷音楽	劇場音楽	
	食卓音楽	軍楽	環境音楽	教育音楽

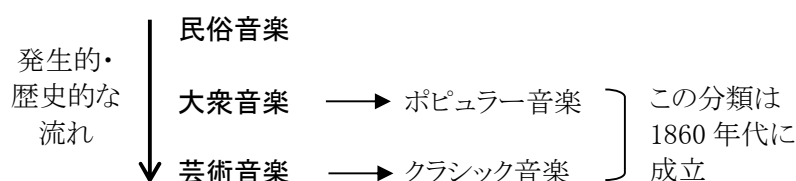
◆地域・民族による分類

例:	日本音楽	フランス音楽
	東洋音楽	西洋音楽
	アフリカ音楽	アイヌ音楽

◆時代による分類

例:	中世音楽	バロック音楽	近代音楽	20 世紀音楽
----	------	--------	------	---------

◆「分類」と歴史的経緯の関係



※1960 年代に「民族音楽」という言葉が現れ、
1980 年代に「世界音楽」という言葉が流行

●民俗音楽

◆民俗とは

みんぞく【民俗】 民衆の間に伝えられ行われている風習・風俗。(大辞林)

folklore : 1 traditional customs, tales, sayings, dances, or art forms preserved among a people (Merriam-Webster)

◆民俗音楽とは

普通の人々によって、長い伝統の中で伝えられ保持されてきた音楽。

支配者というよりも被支配者階級の音楽。あまり都市化／商業化されていないというイメージが強い。

聴衆のみならず演者も職業的専門家でないことが多いので、技術的な洗練にも乏しいというイメージもある。

「民俗」は英語の folklore に相当。

◆遊び歌

a) アフリカ系アメリカ人の遊び歌とフラット・ダンス

b) アイスランドのお手合わせ歌

c) イヌイト(カナダ・エスキモー)のカタジャック(のど歌)



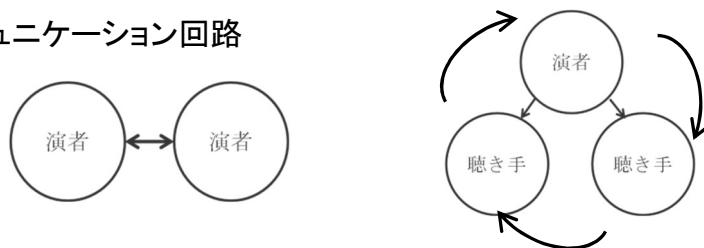
◆労働歌→民謡

a) アフリカ系アメリカ人の労働歌

b) 南部牛追い歌(岩手県)

c) 田植え歌(広島県壬生の花田植え)

◆民俗音楽的コミュニケーション回路



◆民謡は誰のものか

映画「ソング・キャッチャー Songcatcher」(2000 アメリカ)より

